【事業名】邑楽館林地域クビアカツヤカミキリ対策事業
（群馬県館林市）　【団体名】邑楽館林地域クビアカツヤカミキリ対策協議会

令和元年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

サクラ等の生木に食入・加害することで衰弱させ、生態系に甚大な被害を及ぼす特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害の拡大を防ぐため、広域的な連携により、統一した対策（ネット巻き、農薬及び伐倒による駆除、成虫捕殺）に取り組み、邑楽館林地域における防除を推進する。

事業の内容

被害の拡大に歯止めが効かない状況において、平成３０年４月に館林市と邑楽郡５町及び群馬県を構成メンバーとした「邑楽館林地域クビアカツヤカミキリ対策協議会（以下「協議会」という。）」を設立し、広域的な連携により、統一した対策（ネット巻き、農薬及び伐倒による駆除、成虫捕殺）に取り組んでいる。

クビアカツヤカミキリの対策は、樹木ごとの被害レベルを調査し、被害レベルに応じた対策を行うことが、最も費用対効果が高いため、現在、協議会では被害レベルに応じた５段階の対策をとり、防除の効率化を図っている。

実施している対策の中でも、「被害木の伐倒」は、樹幹の幼虫の根本的な駆除ができ、落枝・倒木による人的被害を防止することができるが、コストがかかるため、生物多様性保全推進支援事業の支援を受け、協議会として共同で伐倒事業を実施する。

（写真）被害木の断面

得られた成果

令和元年度事業として、邑楽館林地域において、伐倒対象であるステージ４（樹勢が弱まり、枯損の可能性大）の樹木６０本のうち、４７本の伐倒を行った。

被害木の大部分であるサクラは、公園や街路樹などに多く、地域住民に安らぎを与えたり、観光名所になっている場所もあることから、地域の生物多様性を保全するため、邑楽館林地域でのクビアカツヤカミキリ被害の沈静化を目指す。

さらに、今後は伐倒木を利用し、樹木の外観（樹勢やフラス量）と内部の被害状況（食害率）の相関について、専門家の意見を聞きながら比較検証を行い、被害レベルの特定について更に精度を高め、レベルの違いによって効果的な対策を選択し、実施していく。